



## ヨーロッパへの最初の一歩

2019年2月発行

「マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください」

(使徒言行録 16章 9節)

使徒パウロは今のシリアから出発して陸路を北に向かいました。先の伝道旅行で福音を語り、教会を建てた町を訪ね、信徒たちがどのようにしているかを見て来ようとしたのでした。今のトルコにあったそれらの教会では、「パウロ先生がおいでになった」ということで、とても歓迎されたことでしょう。パウロは神への感謝の中、喜び勇んで、次の新しい土地に向かおうとしました。

ところが聖書は、「彼らはアジア州で御言葉を語ることを聖霊から禁じられたので」(16章 6節)と書きます。アジア州とは小アジア半島の西の地方ですが、どうしたわけか聖霊によって禁じられたというのです。

パウロはそこで北方の黒海沿岸で伝道しようとしていました。しかしまた、「イエスの霊がそれを許さなかった」ということになり、仕方なく西北のトロアスという港町にたどり着きました。パウロたちは西に向かおうとして禁じられ、北に向かおうとしてまたも禁じられ、たどり着いたトロアスは海が広がっているばかりでそれ以上進むことが出来ません。

「聖霊から禁じられた」、「イエスの霊がそれを許さなかった」、これは同じことです。一つの可能性としては、聖霊による超自然的なお告げがあったというものです。不思議なことがたびたび起こった時代ですから、そういうこともあったかもしれません。

しかしもう一つの可能性、何かが起こって予定を変更せざるをえなくなったということも十分に考えられます。パウロが病気になって、西にも北にも進むことも出来なくなったのかもしれません。聖霊が禁じるとか、イエスの霊が許さない、というのが具体的にどういうことであつたにせよ、ひとつ確かなことは、パウロたちが思っていた通りの旅をすることが出来なくなったということです。計画が2度にわたって頓挫してしまつたのです。

パウロにとって今度の旅は観光旅行ではありません。純粹に神様に仕えよう、福音を一人でも多くの人に告げ知らせようという旅でした。それなのに、これもあれも上手くいかないわけで、神様がパウロの計画を妨げられたのだとしたら、それはとても理不尽なことのようには思えます。パウロたちはたどり着いた港町で途方に暮れてしまいました。目の前には海が広がっていて、もう向かうべきところはないのです。しかしパウロには、祈りを聴いて下さる神様がいました。

その日の夜、パウロは幻を見ました。一人のマケドニア人が立って、「わたしたちを助けてください」と願つたのです。パウロはそれまでマケドニアに行くことなど思つてもいなかったのです。しかしこの幻を見てすぐ、エーゲ海を渡り、マケドニアへ向けて出発することにしました。マケドニア人に福音を告げ知らせるために、神が彼らを召されているのだと確信したからです。

パウロたちはマケドニア人の幻によって初めて、それまで自分たちで計画し、実行したことがうまくいかず、変更に変更を重ねなければならなかったことの意味を悟りました。せつかくの計画が思いがけないことでつぶれてしまうという苦しみ、挫折、しかしその中で不本意な道を進まざるをえないとしても、しかしみこころを求めながら歩み続ける時に、神様の思いがけない計画に気づかされ、道が開かれたのです。キリストの福音はこのようにしてヨーロッパの地に最初の第一歩を刻むことになりました。

私たちの人生にも、これと似たような、挫折からの一発逆転があるのです。マケドニア人の幻はまた形を変えて、私たちにも与えられているのかもしれません。「助けてください」と呼ぶ声がどこからか聞こえてきたら、このことを通して、神様がある目的をもって自分を促しているのだと気づいて下さい、その人は、自分の持っているものをもってその場所に向かうのです。

(2019年2月3日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊